

金水氏



技術は何を目指しているか国民への説明責任があるとする国の施策(科学技術基本計画)があり、本学はそのアウトリーチ活動(学びに対する要求や行動を誘発し、学習の機会を与える活動)に重点をおいています。実施にあたっては、特定の企業と結びつく産学連携ではなく、市民一人ひとりとつながる“社会学連携”を目指しています。例えば哲学について語り合う『哲学カフェ』や、市民が大学に課題を持ち込む『サイエンスカフェ』、大学と社会が連携して知術を人々に還元(デリバリー)するトークプログラム『知デリ』などを開催しています。また、『21世紀懐徳堂』は、こうした社会学連携の試みを大阪大学全体で広げて行こうというもので、18世紀初頭に大阪商人がつくった学問所『懐徳堂』の精神を受け継ぎ、平成20年4月に設立されました。これは大阪大学独自のもので、本学と大阪21世紀協会、大阪市、株式会社140Bを同志として、『21世紀の懐徳堂』というプロジェクトも市民協働で推進しています。

定藤 2002年9月に実施した社会人の学びに関するアンケート調査で、約3700名の回答中、7割以上の社会人に学びの意欲があることが分かりました。そこでこうしたニーズに応えようと、2007年4月に関西大学、関西学院大学、同志社大学、立命館大学が呼びかけ人となり、同年10月、キャンパスポート大阪(大阪駅前第2ビル4階)に『NPO法人関西社会人大学院連合』を設立。京阪神の大学・大学院26校が集まってコンソーシアムをつくり、主にビジネスパーソンを対象と

して、ビジネスに関する大学院レベルの教育を行っています。ビジネスパーソン向けの専門セミナーは、関西経済連合会や関西生産性本部、大阪市と連携して毎年20数講座を開講しています。受講料は1回あたり5000円と手頃で、マーケティングやファイナンス、組織管理、起業、テクノロジー・マネジメントなど、内容はかなり専門的です。最近、団塊(定年退職)世代を対象に、セカンドライフを開発する学びのニーズが高まっています。また、社会起業家になるためにNPOへのインターンシップや法人の立ち上げを行ったり、「ベトナムの現地経営者の養成」では、実際に受講者が現地に出向いて日本企業の現状を把握したりなどしています。その他、親(父)子で学ぶキッズサマーキャンプ、大阪21世紀協会の提供による『都市文化論』など、社会人の幅も広げながら活動しています。

定藤氏



奥野 大学の教官は今、学生のコミュニケーション力の低下に困っています。就職活動の際には、企業の方から「話しのできる学生を送ってほしい」といわれるほど。なぜそうなったのかというと、大学進学率の上昇に伴って学生層が変化してきたからだと思います。最近「人を傷つけたり傷つけられたりするの嫌だから友だちと話しをしない」という新入生も少なくありません。こうした状況のなか、大和川以南の南大阪地域の大学・

大学生にスイッチを入れる

短大30校で作っている『南大阪地域大学コンソーシアム』では、さまざまな大学から学生を集め、グループによる学びを実践しています。例えば学生を関西空港の日航ホテルに合宿させ、「関西空港を活性化するにはどうすればいいか」を考えさせます。学生たちは関空の利用者などへのインタビューや活性化の具体策を提案し、教官はインタビューのしかたや抽出した事象のまとめかた、プレゼンテーション方法などを一度にコンデンスして教えます。そうすることで、学生にスイッチが入るんですね。

今の学生はこうしたスイッチが入らないから、大学に進学しても大学生になったという意識が薄い。「大学生だから自分のことは自分で決めなさい」と言っても意外に思われるんです。そうした学生に対しては、さまざまな大学が集まるコンソーシアムでの学びを経験させると、学びへの良いスイッチが入ると思います。

行政が学びの場を提供

平松 まちのなかにある学びとは、大阪というまちがもっている磁力、つまり、ゆとりや遊びを育んできた大阪人の力だと思っています。そうして人と人の温もりが感じられることで、学びの意欲が刺激されることでしょうか。そして行政は、そういう場を提供できると思います。最近とても嬉しかったことに、中之島を中心に昨年開催したイベント『水都大阪2009』が、平成21年関西元気文化圏賞の大賞を受賞したことがあります。私はこのイベントの実行委員長として何度も会場に



『知デリ』



キャンパスポート大阪
(大阪駅前第2ビル4階)



奥野氏



平松氏



水都大阪2009中之島会場
(2009年8月22日~10月12日)